

発行：富山県高岡農林振興センター 高岡市赤祖父 211 高岡総合庁舎 2階 TEL (0766) 26-8474 FAX (0766) 26-8475

ホームページは高岡農林振興センターで検索!!

高岡農林振興センター

検索



富富富の生産拡大に向けた研修会（氷見）  
(P3に本文)



氷見キウイランド（氷見）  
(P4に本文)



青年農業者 田中さん（射水）  
(P6に本文)



農業高校生の就農育成懇談会（小矢部）  
(P7に本文)

### 目次

- 目次 ..... P 1
- 令和8年産米の収量・品質向上対策について … P 2
- 高温登熟に強い高品質・良食味米「富富富」の生産拡大 P 3
- 高温に対応した大豆の技術対策について …… P 4
- 氷見キウイランドの取組み …………… P 4
- 園芸の重点支援対策について …………… P 5
- 農業経営継承に向けた経営資源の点検について P 5
- がんばる女性農業者 佐野漬物教室 …………… P 6
- 青年農業者リレー紹介 田中裕大さん …………… P 6
- 農業高校生を対象とした就農青年育成懇談会の開催 P 7
- 働きやすい就農環境の整備に関するアンケート結果 P 7
- 農業関係表彰管内受賞者のご紹介 …………… P 8
- 乗用型トラクターでの道路走行時におけるシートベルト着用の義務化について P 8
- 冬眠明けのクマに注意! …………… P 8

公式ホームページ「高岡農林振興センター」では、  
①気象情報、②補助事業や講習会、③農作業安全など  
のお役立ち情報を掲載しています。

また、ホームページの更新情報を「公式 LINE」でプッシュ通知（自動配信）しています。

**ぜひ、友だち追加をお願いします!**

アカウント名：富山県高岡農林振興センター  
URL : <https://lin.ee/cX8lqgF>

友だち追加  
2次元コードは  
こちら➡



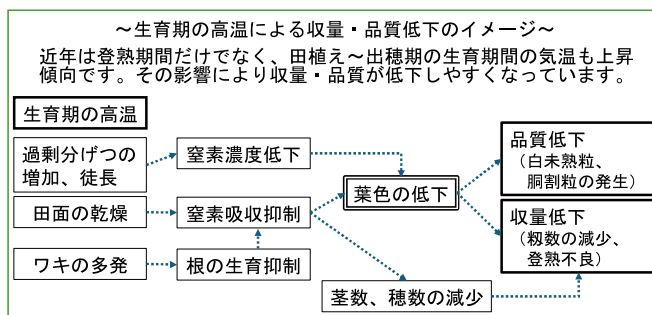
# 令和8年産米の収量・品質向上対策について

～高温条件下に打ち勝つ米づくり～

富山県の令和7年産米の作柄は、作況単収指数99（12月12日現在）となり、うるち玄米1等比率は県平均が87.0%（11月30日現在、農産物検査結果）、当センター管内平均が93.5%（10月31日時点、JA調べ）となりました。中でも「コシヒカリ」は県平均84.6%となり、昨年同期（89.4%）より低くなったことから、「コシヒカリ」の品質低下要因と対策についてまとめました。近年は登熟期間の気温上昇に加え、田植え～出穂期の気温も上昇傾向となり栽培環境が厳しくなっています。高温条件下でも安定した収量・品質を確保して高品質な富山米の生産に努めましょう。

## 1 令和7年産コシヒカリの品質低下要因

- ・ 出穂後20日間の平均気温が28.4℃と高く、葉色が淡くなったほ場で基白・背白粒が発生
- ・ 少雨により用水不足となったほ場を中心に心白粒が発生
- ・ 出穂前～登熟初期の湯水による水分ストレスと登熟初期の高温により、黒点米類似粒（くさび米、写真）に分類される着色米が多く発生



～黒点米類似粒の発生要因と対策～

【発生要因】

- ①登熟初期（出穂10日間）の高温
- ②出穂期前後の湯水による水分ストレス
- ③過剰着粒




写真 黒点米類似粒

【対策】

- ①移植時期の適正化により出穂期頃に高温に遭遇させない
- ②高温・乾燥時は入水する
- ③作土深の確保と中干しにより根の伸長を促し、水分ストレスに強い稲体にする

## 2 令和8年産コシヒカリの重点技術対策

### (1) 初期茎数の確保

- ・ 健苗育成：育苗日数19日間以内（5/15植えの場合）  
搬出直後からの積極的な換気による温度管理の徹底
- ・ 適正な田植え：栽植密度70株/坪、適切な基肥量、植付深度3cm、植付本数3～4本の徹底
- ・ 初期の水管理：活着後は水深3cm程度の浅水管理の徹底  
「ワキ」や藻類が発生した場合は、軽い田干しを実施

### (2) 過剰生育の防止と葉色維持

- ・ 水管理：田植後4週間までの中干しの実施〔高温時は干しすぎない〕  
中干し後の間断かん水と幼穂形成期～出穂期の飽水管理の徹底
- ・ 追加穂肥：出穂7日前に葉色診断を行い、結果に応じて出穂3日前までに施用  
〔「流し込み肥料」や窒素成分の高い肥料のドローン散布により省力化が可能〕

### (3) 継続的な土づくり

- ・ 不足成分の補給：土づくり資材や有機物の積極的な施用
- ・ 稲わらの腐熟促進と作土層の確保：秋耕（耕深10cm程度）と春耕で作土深15cm以上を徹底

### (4) 雑草防除の徹底

- ・ 防除効果向上作業：雑草の発生草種や葉齢に応じた薬剤の選定  
田面の均平や適正な水管理等の徹底
- ・ 収穫後作業：1年生雑草には①石灰窒素の散布、②「プリグロックスL」の散布（翌年融雪後の散布も可）、多年生雑草には①秋耕・排水徹底、②「ラウンドアップマックスロード」等の散布  
（農業普及課）

# 高温登熟に強い高品質・良食味米「富富富」の生産拡大

～気候変動に強い米産地づくりを進めましょう～

去年は記録的な高温に加え、無降雨日が続いたことによる渇水、その後の集中豪雨などに見舞われました。こうした中で「コシヒカリ」では白未熟粒やくさび米の発生により格落ちが見られましたが、高温や倒伏に強い「富富富」は、安定した高い品質を確保しました（表1）。

表1 令和7年産「富富富」及び「コシヒカリ」の1等比率（R7年10月31日現在）（単位：％）

	JAいみず野	JA高岡	JA氷見市	JAいなば	管内計	県全体(※1)
富富富	98.0	96.7	91.1	99.5	97.6	95.8
コシヒカリ	96.1	91.8	88.3	96.2	93.6	84.6

※1:県全体はR7年11月30日現在

## 1 「富富富」のさらなる生産拡大を図りましょう

令和8年産は、令和7年産に比べて管内全体で156ha増加し、776haの作付見込みとなっています（表2）。「富富富」等の高温耐性品種のさらなる作付拡大により、気候変動に強い産地づくりを進めましょう。

表2 「富富富」の作付面積

		JAいみず野	JA高岡	JA氷見市	JAいなば	管内計
令和8年産 見込み(※2)	作付面積(ha)	112	110	167	387	776
	経営体数	17	62	42	82	203
令和7年産	作付面積(ha)	100	77	119	324	620
	経営体数	19	50	46	79	194

※2:R8年1月15日現在

## 2 収量の安定化に向けた「富富富」栽培のポイント

令和7年産「富富富」では穂数不足や登熟歩合の低下により、収量が低いほ場が一部見られました。下記のポイントに十分留意し、収量の安定化を図りましょう。

### (1) 初期茎数の確保

50株植えの栽植密度が低いほ場では、穂数が312本/m<sup>2</sup>と少なく（図）、目標穂数400本/m<sup>2</sup>が確保できず、一穂着粒数が過剰になることから登熟が悪くなり、くず米が多く発生します。

栽植密度は70株/坪とし、初期分けつを確実に確保しましょう。

### (2) 湛水直播栽培での苗立ち安定化

令和8年産から新たに湛水直播栽培に取り組めるようになり、規模拡大に向けたさらなる作期幅の拡大や省力化を図ることができます。

湛水直播栽培では、①前年度に「富富富」を作付けしたほ場を選定し、漏生イネを防除すること、②苗立ちが良い過年度種子（1年間保管管理した種子）を使用することが重要です。

苗立ちや初期生育の確保に向け、播種後の水管理の徹底や除草剤の適期散布に留意しましょう。

### (3) 追加穂肥による適正な葉色への誘導

穂揃期の葉色が淡いほ場（SPAD値が34未満）では登熟歩合が低下する傾向があります。このため、葉色が淡い場合は出穂3日前までに追加穂肥を施用することが重要です（写真）。

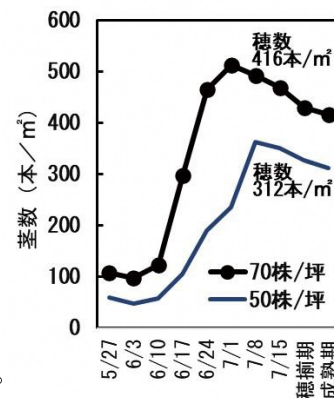


図 茎数の推移  
(R7 氷見調査ほ)



写真 大型ドローンによる  
追肥作業

(農業普及課)

## 高温に対応した大豆の技術対策について

令和7年産大豆は、開花期から子実肥大期の高温・少雨による成熟期の遅れや小粒化、さらにはハダニ類や吸実性カメムシ類（写真）の多発や青立ち（莢先熟）の発生が収量・品質に影響を及ぼしました。

今後も高温条件下での栽培が想定されます。このため、令和8年産は以下の技術対策を実践し、安定生産につなげましょう。

### <令和8年産対策>

#### 1 適期・適正な播種

適期播種に努めるとともに、地力の高いほ場等で青立ちの発生が懸念される場合は、播種の早限を6月上旬とし、子実肥大期の高温を回避するとともに、基肥窒素量を減肥しましょう。

#### 2 莢数・百粒重・品質確保のための畦間かん水（図）

開花期頃から9月上旬頃まで晴天が3日以上続くと見込まれる場合は、降雨に頼らず積極的に畦間かん水を実施しましょう。

#### 3 適正な病害虫防除

紫斑病とカメムシ類に対しては、適期に2回の基本防除を徹底しましょう。また、著しいカメムシ類による被害は青立ちの発生を助長することから、基本防除後にカメムシ類の発生が多い場合は、確実に追加防除を実施しましょう。



写真 大豆吸実性カメムシ類  
(左:ホソヘリカメムシ、右:イチモンジカメムシ)

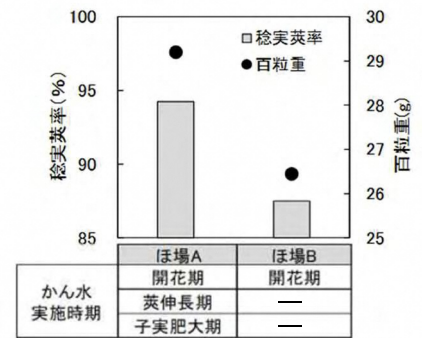


図 高温・少雨下における畦間かん水が稔実率と百粒重に及ぼす影響  
(R7生育観測ほ)  
※開花期:A:7/16、B:7/15

(農業普及課)

## 氷見キウイランドの取組み

### ～キウイフルーツの大規模栽培～

氷見キウイランド（合同会社丸進物産）は、北陸最大規模のキウイフルーツ5.5haを栽培している農業経営体です。代表の許 斌さん（写真1）は、平成15年に中国から富山県へ移住し、令和元年から氷見市赤毛及び高岡市五十辺でキウイフルーツ栽培を始め、同社の育成系統であり高糖度で酸味の少ないジューシーな翡翠グリーン、果肉の中心部が赤いレッドキウイ（写真2左）、甘味の強いゴールドキウイ（写真2右）、世界中で広く栽培されている Hayward（写真2中）等、14もの品種を栽培しています。栽培の特徴として、堆肥施用による土壌改良、夏季のかん水、獣害対策等を徹底しています。令和6年から本格的に収穫が始まり、令和7年の収量は30tと前年の5tより大幅に増加しました。

収穫したキウイフルーツは市場のほか、県内の道の駅、JA直売所、スーパーマーケット等に出荷し、地産地消に取り組んでいます。また、富山県産キウイフルーツの美味しさを広めるため、なやマルシェ、とやまグルメフードフェス等のイベントへも積極的に出店しています。

直売所では、キウイフルーツに加え、令和5年から生産を開始したさつまいも、干し芋等を販売していますので、ぜひお買い求めください。  
(園芸振興班)



写真1 許 斌さん



写真2 キウイフルーツ3種  
(左:レッド 中:Hayward 右:ゴールド)

# 園芸の重点支援対策について

～園芸作物の生産拡大に向けて～

令和6年産からの米価高騰を受け、米の増産への動きがある中、園芸の栽培面積は減少傾向にあります。これまで県では、稲作だけに頼らない複合経営を目指し、実需者のニーズの高い園芸品目の作付けを推奨してきました。今後も実需に応じた米生産と水田フル活用が重要であることから、収益が高く特色がある園芸作物の生産拡大に対する支援を以下のとおり行っていきます。

## 1 新規就農者の受入体制の整備

管内の園芸産地では、生産者の高齢化と担い手不足から、生産者数や出荷量が減少している一方、園芸の就農相談も多いことや令和7年に新設されたとやま農業未来カレッジの「園芸経営実践コース」から園芸の担い手が就農することが期待されています。

そこで、農林振興センターは、市、JA、産地、生産者、広域普及指導センター等と連携し、産地提案書（図1）を基に産地の強化を図り産地の新規就農者等の受入体制整備を支援します。

## 2 リーディング経営体の育成と産地強化

園芸作物の販売額が概ね1千万円以上を達成している経営体は、県全体で276に対して管内では36（令和7年度、表）と少ない中で、複数の園芸品目栽培、販売先の多角化、農地の高度利用により産地をけん引するモデルとなるリーディング経営体の育成を支援します。

また、富山県内のそれぞれの地域の「土地の個性」を活かした園芸品目の生産・販売の取組みを「とやまテロワールベジ創造支援事業」（図2）を活用して、県外産との差別化や販売価格の安定化を図り、生産拡大と収益向上による産地強化を支援します。



図1 産地提案書（例）

表 リーディング経営体数（延べ）

	R5	R6	R7
射水市	8	8	9
高岡市	13	14	15
氷見市	4	4	5
小矢部市	7	7	7
管内計	32	33	36
県全体	219	275	276

※園芸品目合計販売額が概ね1千万円以上の経営体数（R7年12月農林振興センター調べ）



図2 とやまテロワールベジ Instagram（園芸振興班）

# 農業経営継承に向けた経営資源の点検について

2025年農林業センサス概数で、県内農業経営体は8,795と、前回（2020年）比3,561（28.8%）減少したほか、県内233の地域で策定された地域計画においても、10年後に担い手不在となる面積が32%を占め、現在の担い手の継続が途絶えれば地域農業の縮小・消滅につながるものが危惧されます。

そこで、将来的に農業を継続していくため、自らの経営を円滑に次代に継承する必要があり、まずは自らの経営資源（労働力・農地・機械施設等）や取引先、技術、ノウハウを整理し、課題の検討を始めていただきたいと思います。

このたび、市・JA・農業委員会・農林振興センター等で組織する各市担い手育成総合支援協議会と射水市農業再生協議会では、担い手経営者と直接面談し、別添「資源点検表」（図）を用いて、労働力・農地・機械施設・資金等の10年後の姿と課題についてヒアリングすることとしています。

この活動を通じて、担い手には経営継承に関する課題や早期着手の重要性などに気付いていただくとともに、関係機関が連携して担い手の経営継承を集中的に支援することとしています。前述協議会から連絡があった場合は、ご協力をお願いします。（経営支援班）



経営体	経営体名	経営資源の点検									
		労働力	農地	機械施設	資金	取引先	技術	ノウハウ	その他	課題	備考
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

図 資源点検表（一部）

## がんばる女性農業者

～ 佐野漬物教室（高岡市）～

「佐野漬物教室」は、JA 女性部の佐野だいこんの消費拡大運動から始まり 45 余年、地域の特産である佐野だいこんを使った麴漬けを製造販売しています。佐野地区は豊かな庄川の伏流水の恩恵で、だいこんやにんじん等の根菜が美味しく育つ地域です。JA 青年部が栽培を担い、11～12 月に収穫し、そのみずみずしいだいこんで作る麴漬けは、活動当初から変わらぬ製法で、ほどよい甘さと塩加減で歯触りもよく、今も多くの消費者に支持されています。商品は、自家用小パック入りから贈答用 2～8 kg の箱入りまで用途に合わせて揃えており、地元の母ちゃんたちが守ってきた高岡の伝統の味として定着しています。

しかし、近年はメンバーの高齢化や人員不足など継承課題を抱え、その対応策として、令和 6 年より、県の農村女性起業多世代協働促進事業を活用し、麴漬けづくり「加工体験会」の開催による人材確保や、新規のお客様へのアピールのための包装やデザイン改良（写真 1）、また令和 7 年は東京圏での販路開拓のため県アンテナショップのイベントに初出展する（写真 2）など、後継者募集や経営強化に向けた新たな挑戦に取り組んでいます。

今後もチェンジとチャレンジを続け、美味しい味が永く引き継がれることを期待しています。

（経営支援班）



写真 1 デザイン改良した麴漬け大根



写真 2 イベント出展の様子

## 青年農業者 リレー紹介 第 9 回

～ 田中裕大（たなか ひろお）さん（射水市）～

田中裕大さん（写真 1）は、父が代表取締役の（株）田中農産（令和 8 年 1 月法人化、経営面積 45ha で水稻・大麦・大豆・イチジク・さつまいもなど生産）に、東京農業大学卒業後の令和 3 年 4 月に就農され、現在、同社の取締役となっています。

就農の動機は、幼少期から家業の農作業を手伝う中で、ものづくりの楽しさや自然と向き合う大切さを感じたこと、そして、これからは自分が新しい技術を取り入れながら地域農業を支えていきたいと考えたことです。

裕大さんは、農作業全般に従事するとともに、クラウド型営農サポート支援システム（KSAS）や AI 及び衛星画像データを活用した栽培管理支援システム（ザルビオフィールドマネージャー）を連携させ、施肥設計や防除体系の検討に活用するなど、データに基づく栽培管理に取り組んでいます。

将来的には、100ha を超える経営面積を的確に管理・運営できる会社を目指し、効率化及び高品質な生産を両立させ、次世代につながる農業の実現を目指しています。

また、令和 5 年に氷見射水高岡地区青年農業者協議会（HITS）に加入し、令和 7 年 3 月から副会長として、射水市内の会員のとりまとめや活力ある協議会運営にも尽力いただいています（写真 2）。

（経営支援班）



写真 1 田中裕大さん



写真 2 HITS 現地視察での説明

## 農業高校生を対象とした就農青年育成懇談会の開催

当センターでは、氷見市農業教育振興会、富山県農業教育振興会小矢部支部と連携して、新規就農者の確保・育成を目的に、農業分野の高校生が農業者の先進的な取組を学ぶ「就農青年育成懇談会」を開催しました。

令和7年11月11日（火）は、氷見高校の生徒11名が、氷見市内のいちじく栽培農家でスイーツ専門店を営んでいる里山工房FICOで農産加工を体験（写真1）し、水稲経営を第三者継承した萩原紀論さんから就農に至った経緯などの説明（写真2）を受けました。

令和7年11月18日（火）は、小矢部園芸高校、中央農業高校の生徒8名が、小矢部市で水稲とバラの栽培・加工に取り組む田中園芸（写真3）で、バラのフラワーアレンジメントを体験（表紙写真）し、主穀作・野菜の生産、にしんの糞漬などの加工に取り組む（有）耕で、白ねぎの皮むき・袋詰めなどの調製作業を体験（写真4）しました。

参加者からは、「普段体験できないような作業を通し、農業の楽しさを感じることができた」、農業の苦労や楽しさの説明を聞き、「自分も何事にもチャレンジしていきたい」などの感想がありました。

この体験を通じて、農業に興味を持ち、就農につながることを期待します。



写真1 いちじくジャムのパンナコッタ作り体験  
（里山工房 FICO）



写真2 就農までの経緯等の説明（萩原さん）



写真3 バラ栽培のハウス内での説明（田中園芸）

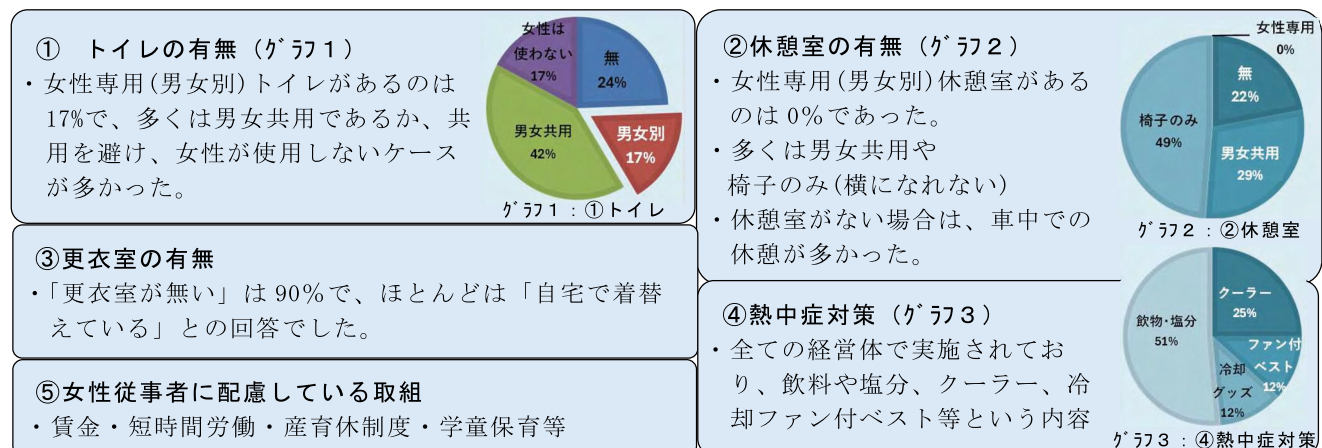


写真4 白ねぎの調製作業体験（（有）耕）

（経営支援班）

## 働きやすい就農環境の整備に関するアンケート結果

県は、農業従事者が働きやすい環境を整備し、男女ともに活躍できる職場づくりを支援しています。8月に就業環境の整備状況について、管内のプロ農家情報の配布先400経営体に対しアンケート調査を実施したところ41経営体から回答があり、その概要は以下のとおりです。



アンケートを通して、全体的にトイレや更衣室などの就農環境の整備状況は充分ではなく、特に女性専用となると、さらに少ないとわかりました。

男女ともに活躍できる職場づくりの第一歩は、男女別トイレ・休憩室・更衣室の整備からです。

誰もが働き続けたいと思える就農環境を目指し、安全と健康、モチベーション向上のため、できるところから環境整備を始めてみませんか！支援策については経営支援班までご相談ください。

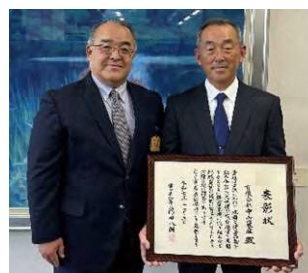
（経営支援班）

## 農業関係表彰管内受賞者のご紹介

栄えある受賞おめでとうございます

### ○令和7年度富山県功労表彰（令和7年11月4日）

(有)中山農産（高岡市）は、大区画ほ場整備とスマート農機の導入により、水稻やハトムギ、加工用キャベツなどの園芸作物を組み合わせた大規模な複合経営を展開するとともに、地元畜産農家と連携して堆肥を活用した土づくりや、子実用とうもろこしを栽培し畜産農家に提供する耕畜連携に取り組むなど地域農業の振興に貢献されました。

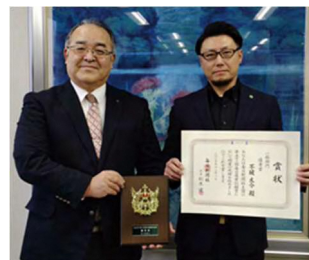


武内所長 （有）中山農産

### ○第53回毎日農業記録賞（一般の部・優秀賞）（令和7年12月8日）

同賞は、毎日新聞社主催の「農や食、環境への思い体験、提言」をつづるもので、全国から1,107編の応募があり不破大介さん（高岡市）は、「仕事はスタイルから」のタイトルで優秀賞を受賞されました。

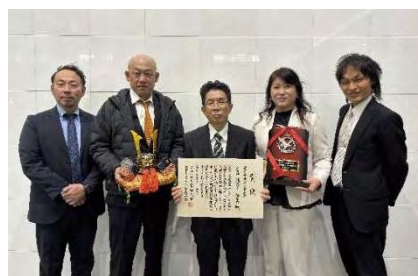
非農家の長距離運転手から農業法人従業員として就農し、第三者経営継承で独立、水稻の栽培面積42haを一人で管理し限界に挑戦中。さらに農業が職業として選ばれるようにするため、農業経営の企業化と地域計画で強い経営体を作ることを提言されました。



武内所長 不破大介さん

### ○第74回富山県農村文化賞（令和7年12月11日）

久目地区地域づくり協議会（氷見市）は、閉校した久目小学校校舎を「久目地区交流館」として再生・運営し、「パンプキンワールドカップ」や「黒板アート」など様々な地域交流イベントを開催するほか、都市部からの移住促進や新規就農者への支援、地元産かぼちゃやキウイフルーツを使った6次産業化の取り組みなどが評価されました。



久目地区地域づくり協議会の皆さん

## 乗用型トラクターでの道路走行時におけるシートベルト着用の義務化について

乗用型トラクターにおける機体の転倒・転落を原因とする死亡事故が多く発生している状況を踏まえ、道路運送車両の保安基準が改正され、乗用型トラクターへのシートベルト装備が義務化されました（適用日：令和9年1月1日）。適用日以降に製造された乗用型トラクターで道路走行する際、運転手はシートベルトの着用が義務となる旨、ご了承ください。

また、農水省のホームページ（図1）を参考にして農作業安全の一環としてシートベルトの着用（図2）をお願いします。



図1 農水省のシートベルト着用義務化ホームページ

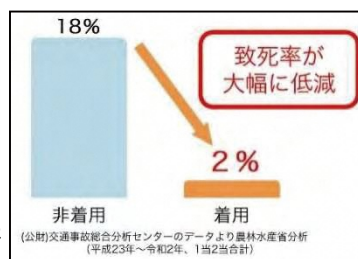


図2 トラクターにおける事故時のシートベルト着用状況別致死率（経営支援班）

## 冬眠明けのクマに注意！

春はクマが冬眠から目覚め、食べ物を求めて活発に活動する季節です。特に今春は、昨秋のドングリの凶作の影響から、積極的に活動することが想定されます。

このため、①鈴やラジオなど音が出るものを携帯し、クマが人を避けるよう促す（山菜取りなど山中に入る際は特に注意）、②クマが活発に活動する朝夕は、農作業を控える、③子グマを見かけたらそっと立ち去る（母グマが近くにいます！）、④不測の事態に備えて、ヘルメットの着用等で頭部を守るなど、十分にご注意ください。

（企画振興課）